

◇令和元年／2019年9月号 第94号◇



フジサンケイグループ

会 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



上 高円宮妃殿下から「第36回産経国際書展」高円宮賞を受ける渡邊麗理事長代行(7月31日、明治記念館)
下 開会式：左から伊藤欣石副会長、村越龍川最高顧問、飯塚浩彦社長、風岡五城理事長、田中鳳柳最高顧問



産経新聞社
事業本部長
伊藤 富博



産経国際書会
理事長
風岡 五城

将来の飛躍をめざして

9月に入り、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今夏も皆様のお蔭を持ちまして、東京都美術館での第36回産経国際書展、そして明治記念館での贈賞式・祝賀会を滞りなく終えることが出来ました。

本年も表彰式・祝賀会には高円宮妃久子さまにご臨席を賜りました。

現在は、8月下旬から始まった東北展をはじめとする地方展が順次開催されており、それぞれの地方の皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

今回の出品数は、35回記念展の翌年で、心配をしましたが、2年連続で6000点の大会を超えることが出来ました。

また、第2回目を迎える「書で結ぶ世界と日本」もイスラエル、イタリア、オランダ、中国など12か国の駐日大使などからご出品をいただき、国際交流に弾みを付ける事が出来ました。

夏期研修会も東京と大阪で2年ぶりに行いました。今回は、テーマを臨書に設定し、書会からそれぞれの分野をお得意とする先生方を講師に迎え、盛況のうちに終了しました。

今年は昨年のような大きな行事はありませんが、将来の飛躍に向けた準備の年です。書会組織の在り方や出品者増にむけた施策、海外での展覧会開催などについて検討を進めたいと思いますので、引き続きご協力の程、よろしくお願いたします。

書を通じた国際交流

第36回産経国際書展は、本展はじめ各種イベントも滞りなく進行し、盛会のうちに終了することが出来ましたこと、会員の皆様並びに関係各位のご支援、ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

書会の活動の柱であります国際交流につきましては、「書で結ぶ世界と日本」の企画を昨年に続いて今年も行うことが出来ました。さらに来年のオリンピックに繋げていきたいと考えています。

また今年は韓国からご当地を代表する4名の作家から特別出品をいただきました。中国からは約30点の一般公募による出品がありました。

書を通じた国際交流を今後を着実に進めていくことが書会の存在感をさらに高めることにもつながると思います。

80歳以上の会員を対象とする特別色紙展は、改元の年に当たり高円宮妃殿下には「徳・雅」のお題を頂戴いたしました。天皇皇后両陛下のご即位と皇室のいやさかをお祝いするに相応しいお題で、書会一同、大変光栄にまた嬉しく存じ上げる次第です。

産経国際書会はこれからも会員の皆様とともに、新たな創造を目指して進んでいく覚悟です。

今後とも益々のご支援・ご理解をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

第36回 産経国際書展

7月27日(土)～8月3日(土)
東京都美術館

第36回産経国際書展は、東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で7月27日から8月3日まで開かれた。総出品数は記念展の昨年よりは若干減少したが、一昨年の34回展よりは約200点多い6,157点だった。その数は4年前の第32回展と同じくらいまで回復してきた。

高円宮賞は渡邊麗理事長代行、内閣総理大臣賞は田村政晴常任顧問が受賞した。

今年は全日本華人書法家協会の会員をはじめ中国、香港から32点の応募があり、産経新聞社賞をはじめ多くの賞、入選などを受賞した。また、韓国からは著名な書法家4人の作家の作品が特別展示されるなど国際色豊かなものとなった。

昨年同様、「書で結ぶ世界と日本」展も開催、イスラエルやイタリアなど12カ国の駐日大使が日本語の「夢」または「家族」にあたる自国の言葉を書作にした。

そして、今年の特別色紙展は高円宮妃殿下から「徳」と「雅」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による色紙展を開催し、色とりどりの色紙77点が飾られた。

昨年に引き続き本展のPRとして著名人の書も展示した。タレントの中山秀征さん、松村雄基さん、藤田三保子さん、岡部まりさんの作品が特別出品された。(事務局)



高円宮妃殿下のお言葉



飯塚浩彦社長の挨拶

【来年度】第37回展

会期 令和2年7月27日(月)から8月2日(日)

前期：7月27日(月)～7月29日(水)

後期：7月31日(金)～8月2日(日)

30日(木)が展示替え

会場 東京都美術館

ロビー階と1階の第1～第4展示室

贈賞式 7月29日(水)午後2時～、
大手町サンケイプラザ4Fホール

第 36 回 産経国際書展

皆様に感謝



実行委員長 岩浅写心

36回の本展も無事終了しました。事務局はじめ各部役員すべての関係者に心から御礼申し上げます。

昨年の記念展で頑張ったので、その反動で出品数が激減するのではないかと心配しましたが、今回も6000点を超える出品を頂き各指導者の皆様のご努力に敬意を表します。ただ、昨年より20%、または25点の出品増の団体には、表彰状と代表者に御礼の雅印を贈るという制度については、発表が総会の席と唐突だったせいで該当団体は全日本華人書法家協会（会長・晋嶋先生）の一団体だけでした。37回展も続けたいと思います。

さて、5月の審査会は搬出入部との連携もスムーズに行われ、産経らしい公平な審査が行われたと思っています。陳列部も、蛍の光が放送されても未だ確認作業に飛び歩き、開幕日は朝から1階の確認に追われるほどの大忙しでした。受付も大変でしたが、ギャラリートークも好評でした。

これからも出品者の為にどうあれば良いか探り続けたいと思います。来年はオリンピックの年です。どんなことで「オモテナシ」をしたら良いか、企画部の皆さんとも研究していきたいと思います。

今年の懇親会は中国から来た26人の方が、また大使館関係の方が場を盛り上げてくださいました。次回はもっと盛会になって国際の名を実証できることを期待しましょう。



書で結ぶ世界と日本～「夢」と「家族」



色紙展「徳」と「雅」



著名人の「書」(左から藤田三保子さん、中山秀征さん、松村雄基さん、岡部まりさん)



審査本部 第36回展の審査を終えて

審査本部長 村田白葉

令和に改元され、新しい年の始まりを告げた令和元年の開催となった「第36回展」の審査会は5月28日から31日まで、前回同様、東京都足立区の「シアター1010ギャラリー」で開催されました。

各部の審査員は、漢字16名、かな5名、現代書13名、篆刻・刻字3名、臨書4名、U23 5名の総勢46名の先生方にご出席を頂きました。例年通り4Cに基づき、公正・公明な審査をお願いし、連日熱気溢れる審査会となりました。

そして最終審査の特別選考委員会には全日本華人書法家協会の晋嶋氏、二科会常務理事で彫刻家の吉野毅氏を外部審査員としてお迎えし、13名の選考委員により厳正に審査され各賞が決定されました。

審査員の先生方には、大変お疲れ様でした。また、連日ご協力いただきました審査事務部の方々、搬出入部の皆様、業者の皆様をはじめ関係者の皆様には心より厚く御礼申し上げます。

東京部会 総入場者数 大幅増

東京部会長 武富明子

今年は梅雨明けが開幕と同時となりました。連日の猛暑日にも拘わらず会場は賑わい、総入場者数は昨年を大幅に超えました。初日のテープカットセレモニー・揮毫会、また、31日のギャラリートークも多くの観客で大盛況。そして、贈賞式・祝賀会は高円宮妃殿下のご来臨を賜り、産経展ならではの華やかな雰囲気を満たされました。昨年に続いて「書で結ぶ世界と日本」のコーナーを設けました。トルコ、イスラエル、オランダの大使等は、会場内をゆっくりとご鑑

賞くださいました。さらに、韓国著名書家の特別招待作品の展示、全日本華人書法家協会からの出品もあり、多数ご来場の外国人を加えると一層国際色豊かでありました。

来年はオリンピックと重なるので、日本の書道展としてのアピールの方法を考慮検討することに。受付業務も無事終了。会員各位のご協力に感謝。また酷暑の中をご来場くださった皆様にも心より厚く御礼申し上げます。

図録部 全出品者の作品と名前に神経を集中して 図録部長 今田篤洞

第36回展の図録は、2年連続でページ数が増加し、遂に250ページとなった。作品掲載は、無鑑査以上の出品者と各部門の入賞者が基準だが、会員数の増加、招待作家、「書で結ぶ世界と日本」、色紙展などの増加が原因である。毎年のことだが、作品写真と出

品者の一致、全出品者の名前のチェックに神経をすり減らされる思いで、図録部員の皆さんに頑張っていた。令和の時代になり、新たな40回展へのスタートの意味で、表紙デザインを変更したが、好評のようで安堵しているところである。

搬出入部 新しい時代の幕開け

搬出入部長 磯邊哲舟

長年積み上げてきた搬出入部の仕事は、部員が以前と比べて約半分減ってきています。それと同時に作品も少しずつ減少はしていますが、仕事の内容は相変わらず数字との戦いであります。

審査会がスムーズに行われるには搬出入部の責任は重大です。今年度の仕事の一部をお伝えしたいと思います。

前年度から仕訳作業の簡素化を実施したことに伴い大きなトラブルもなく、今回も作業はスムーズに進んでいきました。これらの要因は、数字に強い若い勢力(アルバイトスタッフの皆さん)のおかげである

と思わざるを得ません。特に10時集合が9時半にはスタッフ(部員、表具店、アルバイト)全員が揃っていたことです。予定より早く作業を進めることができました。これもそれぞれのモチベーションが高いと言うことだと思います。

審査会が行われる初日は、午後2時までに審査部へ届けることができ、最終日は午後5時までには全作品を表具店へお返しすることができました。

部員の皆様お疲れ様でした。本当に有り難うございました。

陳列部 作品配置に専念できる環境作り

陳列部長 山本晴城

展示作業に関わる牧野商会ほか陳列業者を含めた人出不足は解消されず、陳列部の皆様には昨年に引き続き大変ご苦勞をおかけしました。26日の陳列日には陳列部のすべての先生がご参加いただきました。あらためてお礼申し上げます。

今回は、重複する無鑑査、会友のプラスチック札の貼付けを止めるなど、できるところで作業の簡略化をはかりました。今後もスピーディな陳列を心掛け、先生方に本来の作品配置に専念できる環境作りに努めてまいります。



時間との闘い！陳列部

第 36 回 産経国際書展

ギャラリートーク 7月31日(水)

企画部 北野香春

司会は企画部部長の岩村恵雲先生、進行役は副理事長の勝田晃拓先生が務められた。始めに各受賞者の紹介があり、まず高円宮賞の渡邊麗理事長代行、内閣総理大臣賞の田村政晴先生、中国大使館文化部賞の伊東玲翠先生、韓国文化院長賞の赤堀翠柳先生、産経国際書会会長賞の鈴木暁昇さん、倉賀野静子さん、大田美州さん、理事長賞の和田玲砂さん、国際大賞の平野恵亮さんの順で9名の受賞者によるお話があった。

渡邊先生からは、受賞作の「気淑く風和らぐ」を書かれた経緯と、現代書の創作には作品の表現としての品格があり、心を震わせる自ずからの真の言葉を常に模索しているとお話があった。田村先生は今回の作品にも書かれたように、宮沢賢治の心象のスケッチを表

現した言葉が好きである、一時期は山頭火の言葉を題材にしてたくさん書いたこともあり、良い言葉を書くだけでなく、自分の心に響くものを素材にしているとのこと。伊東先生は、3世紀の魏の時代末期に、酒を飲んで交遊し清談を行った「竹林の七賢」を題材にしており、今後も書いていかれるという。赤堀先生は、色々な書体を書いてみたいと思い毎年違う書体の作品を提出するよう心掛けていると話された。

他の受賞者からも、「孫過庭の書譜の中にある『作品は気負って書いてはいけない』ということにこだわって自然体で書くようにした」「書を通じて生きることに向かい合いたい」等々、書にかける熱い思いがそれぞれ語られた。



渡邊麗先生



田村政晴先生



伊東玲翠先生



赤堀翠柳先生



会長賞の鈴木暁昇さん



会長賞の大田美州さん



会長賞の倉賀野静子さん



理事長賞の和田玲砂さん



国際大賞の平野恵亮さん

揮毫会 7月27日(土)

企画部 恩田瑞貞

今回は東京都美術館の「平成31年度第1回文化芸術プログラム・英語通訳付き席上揮毫解説」という企画に協力の形で、揮毫会が開催された。2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、公募団体展の文化芸術活動を紹介する企画である。今回、高円宮賞を受賞した渡邊麗理事長代行と内閣総理大臣賞受賞の田村政晴常任顧問のお二人に揮毫をお願いした。

渡邊先生はロール紙に、激しさ・美しさ・力強さ・人間の根源の四テーマに自身の文章を書き加えて、四作品を次々と書き上げた。墨を作品ごとに換え、書き進む中で墨色に変化していく様も興味深かった。続いて田村先生は、3×6の紙に詩や俳句を四点、一字書を二点。テーマ、選文にこだわりをもちながらも淡々と書き上げていった。

先生方、ご協力有難うございました。



大きなロール紙に揮毫する渡邊麗理事長代行



軽やかに揮毫する田村政晴常任顧問

第36回 産経国際書展 祝賀会



祝賀会で談笑する高円宮妃殿下

国際色豊かな展覧会をめざして

今年は全日本華人書法家協会の会員と協会を通じて中国、香港から一般公募への出品がありました。中国大使館文化部国際友好賞や産経新聞社賞などをはじめ特選、秀作、入選など多くの賞を獲得しました。贈賞式・祝賀会には海外から来日したメンバーを含め26人が参加、大いに交流を深めました。また、韓国からも韓国美術協会書芸委員長の権寅鎬さんを含

め4人の書法家の作品が特別展示され、権寅鎬さんが来日し、祝賀会に参加しました。来年は、世界の中国人から応募を募り、50点、100点と出品を増やしていきたいと全日本華人書法家協会の晋嶋代表が夢を語ります。また、韓国につきましても、今回の特別出品をきっかけに一般公募への出品を期待します。



韓国書法家の特別出品



中国人書家の作品が入選(左から2番目)



賑わう祝賀会

高円宮賞

渡邊麗 理事長代行

心に響く現代書「どう書くかより何を書くか」



新しい年「令和元年」第36回産経国際書展に於いて、栄誉ある「高円宮賞」受賞に輝く事が出来、誠に有難うございました。書会の先輩先生方、誠心社、父誠海から三代目の長女と、私の家族、皆様に心より感謝申し上げます。

私は、産経国際書会の創設メンバーで、現代書のパイオニアと称される、故、父、國井誠海に師事、6歳より書を始め日本大学芸術学部を卒業。紀伊国屋書店、田辺茂一氏発行文壇誌「風景」編集部勤務して以降、文学、文字の世界から自分の言葉で表現する書作、書表現を目標とし、今年で書業65年となります。産経国際書展は、第1回展から本展まで、代表展、海外展、他も連続出品、個展、グループ展は海外も含めて30回以上開催参加し、作品収蔵も多数となりました。

受賞作品は「令和」の語源、万葉集より引用、「人々が美しい心で文化が生まれ育つ国であるように」の意味合いに感銘し、伝えたい思いを書きました。心に響く現代書は、古典を基盤とし、今を表現「どう書くかより何を書くか」が要となりますが、創立73周年となる誠心社では現在、外国人の弟子も増え指導の場も国際的となりました。インターナショナルスク



「気淑く風和らぐ」

ールの外国人子供達にも書を広めています。また本年5月にはアメリカCBSテレビから私の作品取材も受けました。

誠海没後10年、山形市にある「國井誠海記念館」は設立32年を迎え、地元や各地から来館者も多く、去年は山形市長佐藤孝弘様がご来館されました。「公益信託國井誠海書奨励基金」は本年まで22回開催、総勢64名を顕彰「書壇に於ける快拳」と称されています。今後益々の書会の発展と飛躍を願い、邁進してまいります。

内閣総理大臣賞

田村政晴 常任顧問

書会発展のために



「宮澤賢治 春と修羅」



帰宅する新幹線の中で、受賞祝賀会の興奮から覚めて、我に戻った。これから自分のなすべき事は何だろうと。

過去に受賞した方々も同じような思いに至ったことだろう。「自分はどのように産経国際書会の役員の一員として、書会発展のために何が出来るのか？」

令和に元号が改まったある日、鄭道昭の下碑を眺めていたら、碑文の中ほどに「和令」の二文字を見つけた。「令和」を反転させた文字で、円筆特有ののびやかで柔らかな文字を目にし、令和時代を考えた。平成が始まりすぐバ

ブルははじけ、それから長い経済の低迷期、東日本大震災に象徴される度重なる災害からの「復興」の二文字。どうしても気持ちが萎える。一億総中産階級意識の芽生え。みんなと同じ想いでいることの安心感。人と異なること、一歩踏み出す勇気を持ってない苛立ち。

北魏時代に燦然と輝く鄭道昭の上碑・下碑・東塔石室銘・論経書詩等の拓を改めて目にする。何物にも屈しない個性溢れる書に圧倒される。そこで令和時代は個々が輝く時代にならなければいけないと強く思った。

日本では「さくら」といえばソメイヨシノだが、ソメイヨシノは接ぎ木で育てており、DNAが一緒に、一斉に咲き、一斉に散る。それに反して、山桜は一本一本のDNAが異なり、咲く時期、咲き方も花の形、色も異なる。

これからの書壇は団体・個人の個性を認め合い、お互いが輝く時代になればよいと思う。

微力ながら、これから書を目指す人たちにより書が好きになるお手伝いのできたらうれしいし、産経国際書会の更なる発展を願って止まない。

中国大使館文化部賞

伊東玲翠 常務理事

中国大使館文化部賞を戴いて

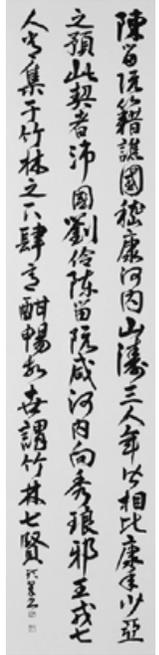


時あたかも元号が令和に改元された記念の年に思いも掛けず「中国大使館文化部賞」を戴き、誠に有り難うございました。これも偏に選考委員の先生方、関係された方々の御恩情の賜物と感激しております。顧みますと昭和59年に産経国際書会の立ち上げを機に応募してよりの36年

間はただ、邯鄲の「夢の枕」粟飯の一炊のごときで当にこれからが正念場と覚悟しております。

今回展の作品は世説新語の任誕より撰文したもので、暫くは此の書物から撰択したいと思っています。世説新語は内容が多岐に亘りますが全体として当会のモットーである4Cの精神と重なる処が多い様に思われます。

7月31日のギャラリートークも初体験と初めて尽くしの36回展でした。最後の華は高円宮妃久子様ご臨席での贈賞式で、名前を呼ばれ緊張して妃殿下の前まで進み一礼をした時、何とも言えぬ温かい微笑みに会い緊張は一瞬で解け、思わず笑み返したのが生涯忘れ得ぬ思い出となりました。



「陳留阮籍譙國嵇康……」

韓国文化院長賞

赤堀翠柳 常務理事

先生のお導き

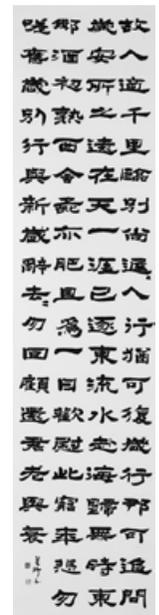


令和になり最初の年に、夢のような身に余る賞をいただき、大変光栄な事と存じます。パーティ会場では高円宮妃殿下とお話ができ、「お体に気を付けていつまでも良いものを書き続けてくださいね」とお言葉を賜りました。これが何よりの宝になりました。

私は故勝田景泉先生に、続いて勝田晃拓先生のびしっとした中にもソフトでユニークなご指導を頂き、また、啓発し合ってきた書友と楽しみながら書作しております。

景泉先生が内閣総理大臣賞を受賞されて10年になります。その節目の年に私が受賞できたのは先生のお導きがあったものと思います。書くとき、体調を崩しと思うように書けませんでした、先生が頑張れと後押しをしてくださったのでしょう。何とか書き上げる事ができましたので、ご推挙いただいた時の喜びは格別でございました。

心よりお礼申し上げます。産経国際書会が益々栄えます事を祈念いたします。



「蘇軾 別載」

第 36 回 産経国際書展受賞者 (敬称略)

高円宮賞

現代書部門 渡邊 麗 (東京都)

内閣総理大臣賞

現代書部門 田村 政晴 (宮城県)

中国大使館 文化部賞

漢字部門 伊東 玲翠 (東京都)

産経国際 書会会長賞

漢字部門 鈴木 暁昇 (東京都)

かな部門 大田 美州 (広島県)

現代書部門 倉賀野 静子 (神奈川県)

韓国文化 院長賞

漢字部門 赤堀 翠柳 (静岡県)

産経国際 書会理事長賞

漢字部門 和田 玲砂 (静岡県)

伊達政宗賞

漢字部門 鈴木 葉光 (福島県)

国際大賞

現代書部門 平野 恵亮 (神奈川県)

文部科学大臣賞

漢字部門 船木 閑清

無鑑査会員特別奨励賞

漢字部門 大井 香簾

漢字部門 梶野 花風

漢字部門 佐野 香翠

漢字部門 程 中

漢字部門 鳥井 春翠

漢字部門 中西 儷

かな部門 黒田 幸子

現代書部門 荒井 裕水

現代書部門 関口 尚

現代書部門 坪石 孝子

現代書部門 中村 未来

現代書部門 堀川 雲峰

現代書部門 三井 紀子

臨書部門 小山 鷺果

太宰府天満宮賞

漢字部門 向井 恵風

外務大臣賞

現代書部門 川野 美鳳

太田道灌やまぶき賞

かな部門 梅澤 松玉

かな部門 大毛 青舟

現代書部門 萩原 彰子

産経大賞

かな部門 増田 孝志

無鑑査会員奨励賞

漢字部門 松本 稲華

現代書部門 肥後 彰宴

臨書部門 小野澤 竹峰

臨書部門 古田 蘭継

産経準大賞

漢字部門 三井田 竹翠

漢字部門 綿貫 彩風

漢字部門 綿貫 勝一

かな部門 高橋 美代子

現代書部門 大場 清美

現代書部門 木村 幾月

臨書部門 良元 鷺栖

会友特別賞

〈漢字部門〉	岩崎 清楓	坂井 礼子	園田 桃香	坪井 駿泉	浜島 圭園
〈かな部門〉	川口 志満子				
〈現代書部門〉	内田 子鴻	大友 伸秋	林 帛甫	村岡 千壽	渡邊 洋子
〈臨書部門〉	李 若娜				

会友賞

〈漢字部門〉	相原 昭一	新井 暁香	粟屋 俊堂	石川 光苑	石綿 葉翠	泉 鳩邨
泉 子鳳	市村 翠祥	伊藤 恵翠	伊藤 晃泉	猪浦 明翠	今村 華綏	江本 清夏
大森 香楓	岡田 赧浄	岡村 晨騰	小川 熊峰	奥川 光華	河西 香峰	加藤 玉華
金木 杏花	亀井 稜石	川口 美窓	菅野 汀泉	木下 芳珠	黒澤 光照	後藤 碩鳳
小森 彩仙	坂井 礼子	笹岡 慶鳳	佐藤 静華	佐藤 津香	杉沢 慧華	鈴木 穂苑
高田 明仙	武田 元崇	玉川 清紅	千葉 瑞苑	都丸 廣仙	中島 啾鳳	中部 紫苑
西川 遷石	原 黄馨	福島 白苑	増田 峰花	松井 遊舟	美之口 琴晴	村瀬 蕙風
山内 雅鳳	山地 暁翠	山田 凌泉	山本 栖峰			
〈かな部門〉	井口 邦子	伊澤 久子	大塚 美雪	加藤 節子	鯉崎 紅葉	鹿屋 真由美
姿 光柳	高野 小百合	寺牛 都	富田 芳金	牧野 友里	松井 秋岳	山吹 英夫
〈現代書部門〉	秋山 峻一	安住 美弥子	五十嵐 梢	伊藤 深山	井上 空咲	岩崎 冬僊
恵美奈 志雅	大賀 陽子	太田 昭華	大友 伸秋	大友 博子	小川 香翔	奥村 佳子
勝又 明子	加藤 葉月	倉岡 さおり	河野 緑	小林 郁	小陽 孝浩	今野 榮園
齊藤 典子	酒井 春蘭	佐藤 和夫	染谷 由美	佐伯 百合子	島田 貴春	志村 幸子
白田 彩翠	鈴木 栖城	ステジョヘルベルト	佐藤 照月	高橋 悠翠	滝口 一華	達家 祥琴
田中 眞由美	千葉 道子	土屋 秀堂	土井 保江	中畦 峰月	中川 奎翠	中村 双琴
西川 遷石	西河 時枝	西口 美津枝	野口 映光	野坂 みい	伴田 顯道	前田 瑞季
松本 明子	丸橋 都風	三宅 和晃	山内 恵子	山岸 慧芳	吉川 吟流	渡部 大望
〈臨書部門〉	諫山 蘭雲	太田 禮香	刈米 紀子	古澤 葵扇	藤巻 華志	

会友奨励賞

〈漢字部門〉	井垣 希鳳	鐘築 重治	桑 敏之	嶋田 清亭	宮崎 玄煌
〈かな部門〉	鈴木 萌園	高山 幸子	松井 秋岳		
〈現代書部門〉	銭谷 佐智子	寺坂 青畝			
〈臨書部門〉	刈米 紀子	小池 路華	鈴木 栖城		

一般公募・特別賞

東京都知事賞

〈漢字部門〉	前田 崇見
--------	-------

愛知県知事賞

〈漢字部門〉	羽根田 皋菖
--------	--------

中国大使館文化部国際友好賞

〈漢字部門〉	翟 鑫
--------	-----

産経新聞社賞

〈漢字部門〉	倪 郡陽	李 樹田
〈かな部門〉	樋口 恵柳	
〈現代書部門〉	大里 万亀子	山口 翠婉
〈臨書部門〉	谷川 良子	
〈篆刻刻字部門〉	黄 麟貴	

フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉	岩井 玲翠
〈かな部門〉	中谷 結彩
〈現代書部門〉	坂本 淳

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉	鈴木 繁子
〈現代書部門〉	有賀 瑚風
〈臨書部門〉	曾根 知邑

国際賞

〈現代書部門〉	増田 恵実子
---------	--------

U23 大賞

〈かな部門〉	山田 彩月
--------	-------

U23 奨励賞

〈漢字部門〉	金原 由依	山本 楓子
--------	-------	-------

第36回産経国際書展

受賞者 喜びの声

(敬称略)

産経国際書会会長賞 鈴木暁昇



師匠の望月暁云先生、東西書芸会の伊藤欣石会長、この作品をご選出していただいた審査員の先生方に感謝の意を申し上げるとともに、この賞を励みに産経国際書会の更なる発展に向けて精進をして参りたいと思います。

産経国際書会会長賞 倉賀野静子



身に余る会長賞をいただき有難く光栄に存じます。書成会、田村政晴名誉会長はじめ諸先生方の長年にわたるご指導のお陰と心より感謝申し上げます。更に精進し励んでまいります。ありがとうございました。

国際大賞 平野恵亮



国際大賞をいただきありがとうございました。何時も温かく寛大なご指導を賜っております、町山一祥先生、書研社の石川天瓦先生、小川艸岑先生に心から感謝申し上げます。これからも文字性を表現しつつ「心にひびく作品」作りに精進していきたいと思っております。

外務大臣賞 川野美鳳



幼少より「好き」の一心で書を書いて参りました。知らぬ内に年を経、「継続は力なり」を実践して来たのを感じます。身に余る賞を頂きました。ご指導下さった松本美娜先生、書友の皆様にご心より御礼申し上げます。

伊達政宗賞 鈴木葉光



この度、大きな賞をいただきまして大変光栄です。これも偏に松崎龍翠会長はじめ煌心書道会の皆様のご指導の賜物と感謝申し上げます。今後、古典を学び作品作りに活かし自己研鑽に努めたいと思います。産経国際書会の益々のご発展を祈願致します。

産経国際書会会長賞 大田美州



この度は、思いもかけない賞を戴き、戸惑いとともに感謝致しております。両手首の骨折にも拘わらず、師匠の先生はじめ多くの方々の支えで、書道を続けられる有難さを改めて感じております。ありがとうございました。

産経国際書会理事長賞 和田玲砂



理事長賞受賞の一報を聞き、高揚した想いを抑えきれず感涙しました。偏に村越龍川先生に巡り合い多くの事を学ばせて頂き、社中の皆様の温かい激励のお陰で書を楽しみながら継続できたからだと思っております。本当に感謝いたします。有難うございました。

文部科学大臣賞 船木閑清



受賞の知らせを聞いて、なかなか信じられませんでした。諦めないで書続けてきて本当に良かったと思っています。五月女紫映先生の温かなご指導のお陰で名誉ある賞を頂くことができました。ありがとうございました。

産経大賞 増田孝志



この度は令和元年に産経大賞を戴き有難うございます。今でも信じられない気持ちと感激で一杯です。これも梓会、伊藤春魁先生ご指導の賜物です。また、教室のお仲間のお陰でもありと感謝申し上げます。今後もこの受賞をバネに更なる書技向上を目指して行く所存です。

2019産経ジュニア書道コンクールを振り返って

2019産経ジュニア書道コンクールは7月27日(土)～8月3日(土)、東京都美術館2階第4展示室にて開催されました。開催には文部科学省をはじめ自治体、多くの企業のご後援により盛会裡に終了することができました。御礼申し上げます。

応募総数は9545点。内訳は高校生の部665点、中学生以下の部8839点、海外の部41点となりました。出品数は昨年度比約150の微増。特に高校生において顕著です。産経書会ホームページでの効果と考えています。ホームページを一層充実させて出品数を増加させていきたいと思えます。中学生以下の部は書写教育に準拠しトメハネに注視するだけでなく個性、感情性をも併せ審査を行っています。高校生の部は漢字仮名とも臨書の出品が7割強となっています。書道芸術科目としての根幹の重要性が認められます。作品はいずれも書き込みがよくされており、原帖の核をしっかりと抑えられていました。ジュニア展は技術進歩がみられ回を重ねるごと見応えのあるものとなってきています。

来年は東京オリンピックの開催です。ジュニア展とオリンピックの期間が重なっています。期間中内外から多くの方々が訪れます。東京都美術館をはじめ上野公園内の文化施設に多くの見学者が期待されます。この機に国内をはじめ海外からのお客様に日本伝統文化のひとつである書写書道を理解していただき、真剣に取り組み支えている姿を見て欲しいと思えます。

悲願である1万点突破をすべく教育部一丸となって努力して参ります。同時に会員諸先生の更なる強い力が是非とも必要です。どうぞよろしく願いいたします。



実行委員会審査長
教育部担当副理事長
高橋照弘

審査委員(五十音順)

【審査長】高橋照弘

【実行委員長】眞田朱燕

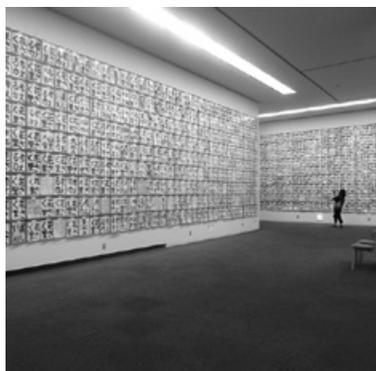
【審査員】安部美芳、泉芳秋、市原蘇水、大谷芳雨、大段栄泉、岡本杏華、恩田峰道、影山瑠琴、勝田晃拓、鴨田茜竹、五戸光岳、小林紫雲、佐々木天道、笹山紅樹、関根史山、玉田子翠、辻本卓峰、長岡輝美、永田昌子、中村雪鷺、長谷川明扇、星野葉柳、前田恵泉、蓑口草川、三宅秀紅、宮平翠玲、村越弘鷹、渡辺美代子



名前を書いて、さあ見よう



作品を探す



壁いっぱい展示された作品



特別賞受賞者による席上揮毫

うちわに筆で字を書こう

教育部部長 眞田朱燕

ジュニア展は、生まれて初めて東京都美術館に出品した子供たちの多くが天井から床まで展示されている作品の中から自分の作品を見つけ出し、同伴の家族や祖父母ともども喜んでいきます。ほほえましくも温かいその姿に、我々実行委員会のご褒美と感謝の気持ちを示す方法として「うちわにかこう」を企画しました。

初めての試みゆえ、前期、後期の初日、午後1時から3時までと限定し、両日で150名余りの参加をみました。一度書き始めると次々にいろいろ書きたくなり、彩色を施し楽しむ子供たち、孫の顔を書き、メール送信する年配者、何度も半紙練習の上、団扇に「家族」と書く外国人、語呂合わせで漢字の名前を指導も……。もっと多くの子供たちに書かせてあげたい！部会にて話し合い結論を出したいと思っています。



書いてみよう



はじめて筆を持つ



外国のお友達も

◎特別賞（中学生以下）

文部科学大臣賞	渡邊佳奈(埼玉県・川口市立安行東中学校)
ジュニア大賞	尾藤ななみ(愛知県・名古屋市立楠中学校)
東京都知事賞	奥山和奏(東京都・東京都立両国高等学校附属中学校)
神奈川県知事賞	川井夏海(神奈川県・横浜市立橋中学校)
千葉県知事賞	河口諒聖(千葉県・柏市立豊四季中学校)
埼玉県知事賞	南沢夏実(埼玉県・坂戸市立城山中学校)
審査員特別賞	村上望華(熊本県・合志市立西合志南中学校)
審査員賞	佐藤葵(千葉県・市原市立八幡中学校)
産経新聞社賞	玉城真生(沖縄県・糸満市立三和中学校)
産経新聞社賞	一木瑛哉(静岡県・浜松市立三方原小学校)
産経国際書会理事長賞	細川季詩(宮城県・仙台市立仙台青陵中等教育学校)
フジテレビジョン賞	田中慎一郎(静岡県・静岡県立浜松西高等学校中等部)
ニッポン放送賞	座古ちひろ(東京都・墨田区立東吾嬬小学校)
産経新聞社賞	松山未来(愛知県・名古屋市立八王子中学校)
産経新聞社賞	関莉果(神奈川県・横浜英和小学校)
産経国際書会理事長賞	端菜々々(兵庫県・神戸市立竹の台小学校)
フジテレビジョン賞	星野愛実(千葉県・成田市立加良部小学校)
ニッポン放送賞	海老澤ゆ奈(茨城県・石岡市立林小学校)



文部科学大臣賞の渡邊佳奈さん



中学生以下の上位特別賞

◎ジュニア賞（中学生以下）

A部門

荒木夢佳、有友瑞希、石黒愛佳、石崎帆香、犬飼裕子、岩本青空、ウィリアムズ ナチュレル翠、内田柚奈、岡田陽南、小野寺涼香、小原野々華、金子さち葉、金子瑞季、上村理世、菅家実桜、北川景子、金智星、久保心、小久保志帆、佐々木胡春、佐藤唯央、島尾陸季、鈴木菜央、関根優菜、高林聖羅、竹尾こむぎ、田嶋莉緒、田中晴希、種子喜也、鳥海秀一朗、中村遥菜、永芳夏乃、野地真緒、橋本若菜、針谷流空、平山碧海、伏貫珠生、藤本陽向、宮崎琉苗、武藤愛湖、村田優衣、森本華帆

B部門

青木美緒、石黒佑華、一柳美羽、岩上ひより、宇野心菜、江連博人、越前はな乃、小野菜、影山颯希、金子茉白、鎌倉遥花、神原結愛、木村心咲、桐戸花暢、小山礼翔、渋谷見奏穂、嶋野葵、白石みのり、鈴木日和、鈴木みらの、竹内杏美、戸倉琉花、中島はるか、中野琴依、野田悠日奈、長谷川結椰、藤原綾乃、古川煌弥、星野敬晴、松井帆奈美、松浦空勇、三谷ことね、渡邊まみな

◎いきいき賞（中学生以下）

A部門

青木悠莉、赤川美湖、浅野菜央、浅見優芽、阿部柚香、伊藤悠陽、隠居美晴、大滝千聖、岡安めぐ美、落合花菜、金谷歩楓、かねこまな、川邊結子、川村七音、工藤莉世、國弘唯衣、古城青暉、篠原杏樹、柴村肇、高野すみれ、鄭曉琦、那賀心春、中結衣花、長岡希奈、中村樹美、西香凛、原田帆乃香、半田朱璃、松井菜々美、宮田一平、宮脇怜也、村山みのり、持田弦宜、森本将成、森本光希、柳沼璃桜、矢吹桃子、山下祥平、横松優花、渡辺昭真

B部門

秋山蒼來、岩瀬歩、エイミー・ナッシュ、大上玲、大高萌々、垣花ゆう、片岡杏奈、川上実佑果、小坂杏、坂野心美、椎名莉子、柴田大輝、清水仁、杉崎えれな、杉田航一、高木昊、高附璃奈、高橋琳来、田中心晴、田中美弥、田村万桜、津志田果子、土屋咲綾、坪井蘭心、中野粹衣、中村優那、成田有里、野口菜奈、濱崎小百合、廣田愛紗、深川誠仁、松尾奈々未、宮嶋蒼依、山崎愛理、山本沙菜

◎特別賞（高校生）

産経新聞社賞	北川巴菜(愛知県・名古屋市立菊里高校)
産経新聞社賞	中村奏穂(静岡県・静岡県立浜松南高等学校)
産経新聞社賞	吉田真由(長野県・長野県長野高等学校)
産経新聞社賞	成田茉莉愛(青森県・青森県立五所川原高等学校)
産経新聞社賞	熊谷洸哉(青森県・青森県立黒石商業高等学校)
産経国際書会理事長賞	有坂真希(岩手県・岩手県立盛岡第二高等学校)
国際友好賞	梁宏彰(台湾・国立高雄師範大学附属高級中学校)
産経国際書会理事長賞	美濃川由希(新潟県・新潟県立新潟南高等学校)



高校生の部・特別賞

◎高校生奨励賞

A部門

伊藤和也、伊藤聖菜、大野柚子、沖愛美、小林葵斗、其田友佳、滝沢涼也、田澤宣尚、松原謙斗、山田花楓

B部門

阿部未怜、雨宮沙雪、有馬みはる、池上侑那、石ヶ森史真、市原好望、内川佳音、江川実可子、小沼麻里亜、河南舞、川端柚、金原匠歩、小池もも、小林葵斗、小林寧々、小林礼実、齊藤大和、佐藤歩実、杉山結菜、妹尾朋奏、高尾楓、高橋彩香、高谷知花、高安麗、田中杏実、田邊あすか、爲實薫、土田菜央、中野花深、中山和奏、西垣乙羽、橋本泰晟、浜田明日菜、原田希来、春名真優、東拓真、藤井花、藤井真希、藤澤凜、松田果倫、宮路美幸、森菜摘、谷津明祈、山中瑠南、山本佳奈、湯瀬愛弓、渡邊絢子

夏 期 研 修 会

産経国際書会 2019研修会

日時 8月17日(土)、18日(日)

場所 大手町サンケイプラザ 4Fホール

『臨書を学ぼう！』

2年ぶりの研修会は臨書をテーマに行われました。両日とも約150人の応募があり、皆さん熱心に取り組んでいました。会員の方はもとより一般の方が書会ホームページを見て応募するなどバラエティーに富んでいました。臨書の重要性は誰もが認めるところですが、ともすればおろそかにしがちです。今回は学習の原点に戻り、書法・技法の向上を図るべく臨書に取り組みました。来年も「臨書」で研修会を行う予定です。



臨書に取り組む参加者



青陽如雲先生



松崎龍翠先生



風岡五城先生



講義をする高橋照弘先生

残暑に臨書、隣者は何を書く人ぞ！

～言ふまいと思へどつひ出づ「暑し！」かな～ 研修部担当副理事長 勝田晃拓

白球が青空に舞う甲子園が佳境を迎えた頃、東京では黒毬が白空に躍る感動のドラマが繰り広げられた。そう、令和初となる2年ぶりの夏期研修会だ。今回は書の原点に戻り「臨書を学ぼう！」をテーマに、書技向上の必須条件である「多聞」「多見」に「多書」を加えた実践型取り組み。午前、午後共に講義、示範揮毫、実習、添削指導と盛り沢山のメニューだが、定員を遥かに上回る受講者数が臨書の重要性を物語る。各体に精通した講師陣の繰り出す言霊、大型スクリーンの華麗な筆の妙に目から鱗の連続、そして間髪を入れぬ実習と続く。見たように筆は動かず格闘の時間が流れ、会場は瞬く間に墨香漂う熱気に包まれた。4箇所の添削場は長蛇の列。当意即妙の批評、一点一画の朱入れにあちこち歓声が上がります。自身が進化するには新しい発見と認識、更なる意欲が必要だが、二日間の貴重な体験を通じて、古典対象との距離が少し縮まったような参加者等の満足げな表情が其れを証明したようだ。閉会時の「次回も是非」の声の多さに、講師、スタッフも本研修の成功を確信した瞬間だったに違いない。帰路、ビルの谷間に吹き渡る風が少し秋の輪郭を感じさせてくれた。参加者、講師、関係各位に熱く感謝申し上げます。

～夏草やつわもの(参加者)どもが墨の跡～



研修部の永田龍石先生



研修部長の五月女紫映先生



研修部の勝田晃拓先生



1日目を終えての懇親会

【講座内容】

日にち	時間	内容
17日(土)	10:10～11:00	講義(50分) 楷書「九成宮」 高橋照弘 副理事長
	11:10～12:40	実作・添削(90分) 高橋照弘、青陽如雲、松崎龍翠、風岡五城 の各先生
	14:00～14:50	講義(50分) 隸書「曹全碑」 青陽如雲 常任顧問
	15:00～16:30	実作・添削(90分) 青陽如雲、風岡五城、高橋照弘、松崎龍翠 の各先生
18日(日)	10:10～11:00	講義(50分) 行書「蘭亭序」(神龍半印本) 松崎龍翠 副理事長
	11:10～12:40	実作・添削(90分) 松崎龍翠、青陽如雲、風岡五城、勝田晃拓 の各先生
	14:00～14:50	講義(50分) 草書「書譜」 風岡五城 理事長
	15:00～16:30	実作・添削(90分) 風岡五城、青陽如雲、高橋照弘、松崎龍翠 の各先生

書と私

1952年2月、戦後初めての海外布教師として渡米、ワシントン州シアトル日蓮仏教会第七世主任開教師としてスタート(当時27歳)した生田観周は教会信徒のため、早速、文化教室を開き、書道、茶道、華道のクラスを設立しました。当時は教会が唯一の心の拠り所であり、新任の若い開教師を迎えて活気も甦りました。現在も米国書道研究会シアトル支部(加柴律子支部長)は健在です。1965年ロサンゼルスで米国書道研究会を発会しました。以後各都市に支部を置き二人三脚で「日本の書」の普及と発展を目指しました。

今日まで55年間は夢のようでもあり、先輩の後援者、メンバーの努力と諸先生方のご指導がなければ到底やり通せなかったと思感謝しています。

1973年頃と記憶していますが、恩師國井誠海先生には奇しくもロサンゼルスでお目にかかる機会に恵まれたことです。先生のお話をお聞きしながら高邁な書の理念と熱意に感動しました。「日本の書を是非アメリカから世界の書に」



名誉顧問

生田 博子



というお話しに意気投合し、早速ご入門のお許しまでいただきました。以来先生も何度かご渡米くださり、私共も毎年東京で先生の特別指導を受けました。当時は毎日展が書壇への登龍門で、近代詩文(多字数)で挑戦された観周先生の入賞が快挙ということになりました。

近いようで遠い日本ですが、酷暑の夏も、また厳冬の雪道も歩き続けて40年あまり、永遠の師であられた國井誠海先生のご指導は生涯の精進の糧です。

世代も三世、四世へと急速に変わりつつあります。異文化の交錯するアメリカでは、世界に誇る日本の伝統文化を継承する次世代を育成しなければなりません。精神性の深い日本の書を掲げ頑張りたいと思います。

米国書道会の年間行事について

- ・産経国際書展、新春展、誠心社展
- ・南カリフォルニア商工会議所主催のお正月書き初め
- ・二世週祭協賛 書道展
- ・ロサンゼルス日本国総領事館主催 書指導
- ・各地区文化祭に参加、席上揮毫
- ・大学での実施指導など



第 36 回 産経国際書展“新春展”募集要項

開催要項(概要)

- 【名称】 第36回産経国際書展“新春展”
【主催】 産経新聞社 産経国際書会
【会期】 令和2年1月22日(水)～2月3日(月) 1月28日(火)は休館日
【会場】 国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2 TEL03-6812-9900 FAX03-3405-2531
【入場料】 500円 (身体障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および学生は無料)

出品要項(概要) ○申込締切:令和元年10月31日(木) ○搬入締切:令和元年11月15日(金)

《新春展Ⅰ 代表展》

- 【出品資格】産経国際書会の下記会員
最高顧問、副会長、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、参与、理事長、理事長代行、副理事長、常務理事、専管理事、理事、監事、評議員
【寸法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。篆刻、刻字、卷子・折帖作品は上記サイズ外。
【出品料】5万円
【特典】作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を1冊進呈(希望者には5冊まで)
【搬入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料を添えて指定表具店へ。

《新春展Ⅰ》

- 【出品資格】審査会員、無鑑査会員
【寸法】タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。全紙以上。篆刻、刻字、卷子・折帖作品は上記サイズ外。
【出品料】3万円
【特典】作品を掲載した産経新聞「産経国際書展新春展特別版」を発行し、希望者には5部まで進呈
【搬入】出品票に必要事項をご記入の上、出品料を添えて指定表具店へ。

《新春展Ⅱ》

- 【出品資格】満18歳以上(産経国際書会会友含む)
【寸法】半切タテヨコ(135cm×35cm)、全紙2分の1(79cm×68cm)
※搬入は未表装で出品票に必要事項をご記入の上、藤和額装(下記作品送付先)まで。団体の場合は一括出品をお願い致します。
※出品作品はすべて展示します、但し、規定寸法と異なる場合には展示できない場合がありますのでご注意ください。
【出品料】2万円
【審査】12月6日(金)
【審査員】勝田晃拓、高木撫松、高橋照弘、武富明子、松井玲月、松崎龍翠、村田白葉
【賞】会友の部：会友奨励賞(賞状、副賞)
公募の部：産経新聞社賞(賞状、副賞)奨励賞(賞状、副賞)
【特典】①作品(半切タテのみ)を軸装にして返却します。(表装料は出品料に含まれています)
②産経新聞社賞受賞者が令和2年7月に行われる第37回産経国際書展に公募で出品する場合は出品料を無料とします。
【贈賞式】令和2年1月30日(木)午後4時～
明治記念館

資料請求先 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 新春展Ⅱ係
問い合わせは TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974

新春展Ⅱの作品送付先 藤和額装(株) 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
TEL045-833-5273 FAX045-833-5275

祝賀会 ○令和2年1月30日(木)午後4時～ ○会場 明治記念館
○会費 1万円

書展 トピックス

第35回記念蕉邦会書展

人見恵風

●会期 令和元年6月18日(火)～6月23日(日) ●会場 鳩居堂画廊4階

昭和42年頃から深澤青蓼先生は、月1回条幅研究会を開き門人の創作指導にあたりました。その後蕉邦会と命名して門下生の会とし、月例研究会と書展を主軸に活動を続けて参りました。師の逝去から28年を経た本年は第35回記念展を迎えまして、師の遺墨6点と師の師である鈴木翠軒先生の青蓼先生宛書状等を記念展企画として展示いたしました。



第55回記念書峰展

田島青谷

●会期 令和元年6月22日(土)～23日(日) ●会場 秩父じばさんセンター

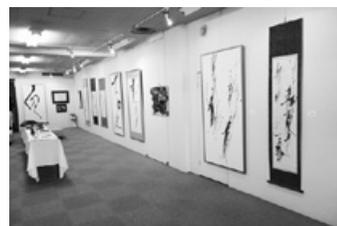
第55回記念展として開催した書峰展は、記念展に相応しく、一般部、学生部ともに前回展を大きく上回る出品数となり盛況。作品は創始者の故松田海軒先生と小林静洲・大川峽暮両先生の遺作を中心に、会員の半切作品が所狭しと展示された。特別企画として、役員、支部長を対象に課題なしのパネルの小作品も展示し大好評であった。

岩間清泉遺墨展

尚友会会長 小杉修史

●会期 令和元年7月27日(土)～8月1日(木) ●会場 ギャラリーやまざき

昨第35回記念展にて内閣総理大臣賞の元副理事長・岩間清泉が急逝した為、遺族・尚友会・他の有志が企画実行し、今本展の会期に合わせ「遺墨展」を開催できました。書会役員・会員・ほか関係者大勢のご協力ご来観を頂きました。故人共々厚く御礼申し上げます。



アラカルト

臨泉会会長、佐々木月花の百寿を祝う会

臨泉会会長代行 原田圭泉



祝賀会は2019臨泉会小品展に合わせ6月3日午後5時より三笠会館にて開催しました。ご多忙のなか産経新聞社熊坂隆光会長(現相談役)、飯塚浩彦社長、最高顧問の田中鳳柳先生、齋藤香坡先生はじめ大勢の方にお集まりいただき、なごやかな楽しい会となりました。皆様にお会いでき、また、三味線の音色に合わせて手拍子をして、とてもうれしかった様です。

皆様ありがとうございました。耳と足が不自由になりましたが、作品に取り組む気力はまだまだ衰えていません。脱帽です。

岩手の晴山竹芳さんがリトアニアで書道交流

無鑑査会員の晴山竹芳さん(臨泉会会員)が、岩手県久慈市とリトアニア・クライペダ市の姉妹都市30周年使節団に参加、リトアニアを今年5月に訪問しました。晴山さんは現地で3×6の紙に「慈愛」と揮毫するなど書道による国際交流を行い、両市の親善に貢献しました。



事務局

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈令和元年9月～12月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

9月

第36回日本総合書作院展

- ①9月3日(火)～9月8日(日)
- ②大阪市立美術館
- ③篠原 秀朋

第34回全国臨書摸刻展

- ①9月6日(金)～8日(日)
- ②埼玉会館
- ③岩浅 写心

group F2019展vol.4

- ①9月10日(火)～9月15日(日)
- ②galleryG(広島市)
- ③植木 由樹子

第5回方城書院書画展

- ①9月12日(木)～9月17日(火)
- ②茨木市立ギャラリー
- ③久田 方城

第35回瑤樹会書展

- ①9月19日(木)～9月22日(日)
- ②フォーシーズンズ志木
ふれあいプラザ
- ③岡村 公裕

世界平和交流書画作品展

- ①9月30日(月)～10月5日(土)
- ②銀座第7ギャラリー
- ③鎌田 悠紀子

10月

第32回研友社展

- ①10月1日(火)～10月6日(日)
- ②銀座かねまつホール
- ③田中 鳳柳

第7回はなみずき会現代書展

- ①10月3日(木)～10月8日(火)
- ②茨木市立ギャラリー
- ③小野 亭良

第47回土筆会書道展

- ①10月8日(火)～10月13日(日)
- ②ふくやま美術館シティーホール
- ③上村 陽香

第25回龍峽書道会役員展

- ①10月8日(火)～10月13日(日)
- ②銀座鳩居堂画廊3F
- ③林 龍成

海游舎書展

- ①10月11日(金)～10月15日(火)
- ②埼玉会館
- ③山下 海堂

第69回汎風会書道展

- ①10月12日(土)～10月14日(月・祝)
- ②熊谷市中央公民館大ホール
- ③岩下 鳳堂

第27回柏葉書展

- ①10月15日(火)～10月18日(金)
- ②柏市民ギャラリー(パレット柏)
- ③高頭 子翠

第51回一燿会書展

- ①10月17日(木)～10月19日(土)
- ②銀座洋協ホール
- ③石川 天瓦

第44回煌心同人書展

- ①10月17日(木)～10月20日(日)
- ②銀座かねまつホール
- ③松崎 龍翠

第48回千墨書道展

- ①10月23日(水)～10月28日(月)
- ②品川区民ギャラリー
- ③近藤 豊泉

第29回遊心書道会展

- ①10月25日(金)～10月27日(日)
- ②広島県民文化センター
地下展示室
- ③大庭 清峰

令和元年 香坡の書画三昧

- ①10月26日(土)～10月31日(木)
- ②鎌倉芸術館ギャラリー
- ③齋藤 香坡

11月

第10回書・墨・アート 渡邊麗展

- ①11月6日(水)～12月25日(水)
- ②座・高円寺
- ③渡邊 麗

第65回あしで會選抜書作展

- ①11月8日(金)～11月10日(日)
- ②尼崎市総合文化センター
- ③今口 鷺外

第37回硯田社書展

- ①11月8日(金)～13日(水)
- ②高新画廊
- ③橘 黄華

第36回記念CMO展・近畿席書大会

- ①11月9日(土)～11月10日(日)
- ②藤井寺市民総合会館
- ③正川 子葉

第31回日書美公募展

併催学生公募展

- ①11月9日(土)～10日(日)
- ②岸和田市立文化会館
- ③樽谷 龍風

第24回秋桜会書展

- ①11月12日(火)～17日(日)
- ②銀座大黒屋ギャラリー
- ③鎌田 悠紀子

井上空咲 初個展～書を奏でる～

- ①11月12日(火)～11月17日(日)
- ②Gallery La Campanella(大阪市)
- ③井上 空咲

「巳歳の会」書展

- ①11月19日(火)～11月24日(日)
- ②東京銀座画廊美術館
- ③今田 篤洞

遠藤乾翠の個展

乾翠のこんにつたIX

- ①11月26日(火)～12月1日(日)
- ②銀座鳩居堂画廊3F
- ③遠藤 乾翠

12月

心芸墨美作家協会2019選抜展

- ①12月3日(火)～12月8日(日)
- ②セントラルミュージアム銀座
- ③岩浅 写心

第6回篤墨展

- ①12月5日(木)～12月8日(日)
- ②ギャラリーやまざき
- ③今田 篤洞

編集後記

長かった梅雨が明けると共に開幕した本展は、連日猛暑続きでした。年々暑さが身に堪えますが、今年も栄えある高円宮賞、内閣総理大臣賞に渡邊麗、田村政晴両先生が決まりました。誠におめでとうございます。

高円宮久子妃殿下御臨席の下、厳粛に行われた授賞式での立派なご挨拶は、これからの産経展も海外や外部に対してさらにアピールしてゆかねばならないと感じた次第です。

昨年に引き続き「書で結ぶ世界と日本」・・・「夢」と「家族」では、各国の大使等に、それぞれの言葉で書いていただき好評でした。

またお盆休みを直撃した大型台風10号により被害を受けた西日本の方々、次々と発生する台風の影響による記録的大雨被害にあわれた九州及び各地の方々に、心よりお見舞い申し上げます。

来年は東京オリンピックの開催時期と重なり、書会とどんなコラボレーションがみられるでしょうか。

(小川艸岑)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は風岡五城理事長

編集・発行 令和元年9月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。